

オリンピックを振り返り

史上最大といわれた、オリンピック東京大会も終りました。この祭典を通じ、てなにもに代えがたい貴重な体験のあつたことができた事と、信じます。

その中でとくにみなさん方の感銘を受けたことは、なんであつたでしょうか。あなた方のお子さんたちはどのようにこの祭典を理解し感じとつたことでしょうか。

われわれおとなも、こどもも一度ふりかえつて考えたり、話合つたり、することもよいことだと思われまふ。こゝに小学生のオリンピックに対する感想文を紙上に掲載いたします。

オリンピックを
かえり見て

布川小六
川口とよ子

アジアで、はじめて開かれた東京オリンピックも終つた。今は静かである。オリンピックの開かれていた間は、なんとなくおちつかなくつた。しかし、今もなお、あのすばらしい競技ぶりが、映画のフィルムのように、目の前にありありとよかんできてる。日本の選手が金メダルをとつた時の喜びは、オリンピックならではあじわいだとしみじみ思う。

わたしが、一番おうれんしたのは、日紡貝塚の出場する女子バレーボールです。毎日、毎日、げんぱつという練習にたえ、がんばり続けた人たちが、一日七時間のつらい練習が、十年間も続けたらと言つては、一日だつて容易ではないのに……。わたしが、もし選手だつたら、きつととらうでくじけ、練習をやめてしまふことでは、苦しい練習にうちかつかつてみごとく連チームをやぶるやうしようした。選手たちは、だきあつて喜びました。あの、瞬間のテレビに映つた選手の姿が、いつまでも忘れられないことでは、あつた。心から「おめでとう。」「と、選手の人たちに

いつている会場の風のような拍手でした。ばんざい、ニチポウチーム。このさけび声をどんなに日本の人はゆめみちたことだろう。わたしもゆめみちたこと。喜び、よくわかりました。何となく心の中があたたくくなる思ひました。

オリンピックのはなといわれてるマラソンでは、エチオピアのアベベ選手がローマ大会につづいてゆめしようしました。日本の円谷幸吉選手は、国立競技場に入つてきた時は二位だつたが、イギリスのヒートリ選手にぬかれて、三位になつてしまいました。しかし、

今年度の赤い羽根共同募金運動は、町民各位の暖かい御理解により、十月二十六日左のとおり目標額に対して一〇、六%の優秀な成績をもつて完了いたしました。

このような優秀な成績をおさめられた事は、婦人会役員、又は区長さん方には農繁の時期にもかかわらず献身的な奉仕活動と併せて町民各位のお互しあわせをわけ合つて明かすいそうしてあわせな社会を築きあげようとする善意の結晶のたまものと深く感謝申し上げます。

尚十二月は才末助け合い運動が展開され町内の恵まれない人達が幾分でも明るく

赤い羽根共同募金完了

一九六四年もあつた。ほとんどの山の中をアベベ選手は、毎日走つていたのだらう。ちよつと中ごろぐらにエチオピアのブラカードが入場してきた。選手はやつぱり、アベベ選手だつた。テレビは、アベベ選手を大きくうつした。色が黒くて、いいからだをしてる。はく手が、いちだんと大きくなつたようだつた。

しばらく見ていくと、日本の旗手福島選手が入場してきた。そのあとに各国の選手がぞくぞくと入場してきた。アメリカ人もドイツ人もソビエト人もみんないっしょに、肩をくんだり手をふつたりやしんをとつたりしながら入場してくる。オリンピックは参加すること、スポーツを通して外国の人たちとなかよくすることだといふけれど、この一週間の入場は、みんなが一つの国の人のように見えてうれしかった。日本の福島選手は、外国の選手の肩ぐるまにのせられて進んでいった。各国の旗手と選手がならびあつた。ブランデーシ会長が閉会のことばをせんげんした。ギリシヤ、メキシコ、日本の国旗があつた。せいかか消えた。競ぎ場はまつ暗になつた。たいまつをもつた人が入つてきた。たいまつのあかりが大きく小さくゆれた。競ぎ場はグリーンとしていた。五輪旗がおろされた。又、行進曲がかかり明るくなつた。電光けいじ板に「メキシコ一九六八年」と出た。行進曲は「ほたるの光」だ。選手たちはなかなかに退場しなかつた。しやしんをとつてあいつつをしながら入場して来た。せつかくオリンピックで友だちになれたのになかよくするときはげんぱつだつた。

ぼくは毎日テレビを見ていた。オリンピックに参加するたけにはくらしい、つらい練習の毎日だつた。勝ち負けはべつとしてりつぱにせいせいどうどうや

昭年39度共同募金

地区別	達成額	達成率
文	37,703円	108.6%
布川	58,069円	103.7%
文間	43,470円	110.9%
東合	47,650円	114.3%
計	186,897	110.6%

歳末助け合い運動

昭和三十九年もあと二十数日を残すのみとなり、皆様方何かとお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

本年も例年のとおり十二月十日頃より歳末助け合い運動を展開し皆様方の理解ある御同情により、町内の恵まれない家庭の人達が幾分でも明るく、お正月を迎えることが出来ますよう

利根町社会福祉協議会長 加納 久頼

冬季即の話題

新しい正月の準備などを話し合つたりすることも、たいへん意味深いことと思ひます。

七日は大雪で、いよいよよきびしい冬を迎えることになりました。八日は針供養ですがこの行事も少なくなり一部の人だけです。

二十二日には冬至で、一年のうちで、いちばん昼

つたのは、りつぱだと思つた。次のメキシコ大会にははりしどしてました。日本のせんしゆはつよいと、わたしはおもいました。せんしゆの人は、はげしいれんしゆをしたとおもつた。やがてバレーボールがおわ

わたしは、うちのテレビで、バレーボールを見ました。日本と、ソビエトでバレーボールをやりました。三てんぐらいつとき日本が、かてばいいなとおもつた。そのとき、ちよつとまけそうになりました。そして、ソビエトが一てんをとりました。二てんがいがだからまけてしまふかなと、おもいました。日本は、まだまけてはいませんでした。そのとき、ねえさんが「二てんもかつてんだからまけないうち」っていいました。そのうち、日本は「一てんをとつた。わたしは、一てんをとつたにかつ」とおもつた。そして、四てんになりました。ソビエトが三てんでした。

わたしは、もう一度ふりかえつて考えたり、話合つたり、することもよいことだと思われまふ。こゝに小学生のオリンピックに対する感想文を紙上に掲載いたします。

オリンピックを
かえり見て

布川小六
川口とよ子

でいった。各国の旗手と選手がならびあつた。ブランデーシ会長が閉会のことばをせんげんした。ギリシヤ、メキシコ、日本の国旗があつた。せいかか消えた。競ぎ場はまつ暗になつた。たいまつをもつた人が入つてきた。たいまつのあかりが大きく小さくゆれた。競ぎ場はグリーンとしていた。五輪旗がおろされた。又、行進曲がかかり明るくなつた。電光けいじ板に「メキシコ一九六八年」と出た。行進曲は「ほたるの光」だ。選手たちはなかなかに退場しなかつた。しやしんをとつてあいつつをしながら入場して来た。せつかくオリンピックで友だちになれたのになかよくするときはげんぱつだつた。

ぼくは毎日テレビを見ていた。オリンピックに参加するたけにはくらしい、つらい練習の毎日だつた。勝ち負けはべつとしてりつぱにせいせいどうどうや

教育委員会書記として昭和三十三年より勤務しておりました。大越房枝さんは十月三十一日をもつて御結婚の退職おしらせ

ため委員会を退職されました。御苦勞様でした。今後はよりよい御家庭を築きますよう祈ります。

日本は、まだまけるようすはありませんでした。日本はりしどしてました。日本のせんしゆはつよいと、わたしはおもいました。せんしゆの人は、はげしいれんしゆをしたとおもつた。やがてバレーボールがおわ

わたしは、もう一度ふりかえつて考えたり、話合つたり、することもよいことだと思われまふ。こゝに小学生のオリンピックに対する感想文を紙上に掲載いたします。

オリンピックを
かえり見て

布川小六
川口とよ子

町民の声 平等たれと望む

各種団体に対する、助成の方法は実には明るさを増し、和合をはかる唯一の方法であり繁栄の源を成すものとして大いに奨励すべき感ばしい事であるが、

擬て助成額において其の種別ごとの平等であるかを見るに当局もそこまでには活眼力を有していないのではなからうか、なぜならば、東京方面の組合は東京方面に比べて相当なる額を地方に運び入れる即ち外貨獲得の一路を切り開いていると見たとき、この獲得額は地方農村並に商店方面に運び去られるのである、そのため税額の高上云々もさることであり豊かな生活も見られる所以である。

このような種別とあつた様な種別とは助成額に大巾な開きもなきにしもあらずだ当局に望むことは縦横高低式に見て助成の方法を取可きかと思つて如何に活眼的に進めてこそ明るさの繁栄がもたらされるのではなからうか、そうしてこそ融和的な町造りがあるのであると思ふ。

一投稿者

豆ちしき 螢光灯の壽命

螢光灯は使用しているうちにだんだんと明るさがなくなつてきます。

螢光灯の壽命とは、新しいときの光度を一〇〇として八〇%以上の明るさを保つて居る時間をいふます。この壽命の長短は、つけたりけしつたりの回数とあかりをつけて居る時間に関係します。

一般に一日三回つけたりけしつたりなを一回のつけたる時間を三時間として、棒状のもの(W)で三時間、丸型サークラインで五、六千時間といわれています。

またつけたりけしつたりひんぱんにすると壽命が短くなり、ふつと、十五分以上居るはずすときは消したほうが経済的です。

共反省せよ 愚言は非ず苦言

筆者は社会の風潮を見て浪花節の名文句では無いが、関東の空風とカカ天下に塩せんべいと云はれるが、関東地方には博徒の親分がたたくさん居る、それにつらなる子分も多分に居る訳だ、

共反省して慎しもうではありませぬか。

一投稿者

共反省せよ 愚言は非ず苦言

筆者は社会の風潮を見て浪花節の名文句では無いが、関東の空風とカカ天下に塩せんべいと云はれるが、関東地方には博徒の親分がたたくさん居る、それにつらなる子分も多分に居る訳だ、

共反省して慎しもうではありませぬか。

一投稿者